

大会名：第48回名寄支部南ブロック新人バスケットボール選手権大会  
 兼 第18回北海道高等学校新人バスケットボール大会名寄地区予選会  
 平成17年12月12日 9時30分 会場：美深町体育館  
 高校男子 決勝 戦評

名寄光凌	59	16		13	49	名寄高校
		12		14		
		14		12		
		17		10		

#### 《第1ピリオド》

スタートメンバーは名寄光凌 山田 山科 北平 内村 富樫、対する名寄高校は 柴田 田口 三浦 齋藤 神田である。光凌はスリークォーターからのマンツーマンプレス、名高はハーフコートのマンツーマンでスタートした。

立ち上がり名高 三浦のジャンプシュートで先取点の奪うが、すかさず光凌 山科も入れ返す。光凌はいい位置でボールをつなぎ、ファーストブレイクを出す。しかし、シュートミスを連続させリズムを掴み切れない。名高は 柴田を中心にディフェンスリバウンドを確実に取り、光凌にセカンドチャンスを与えない。しかし、光凌は 山科 北平のスティールから得点を重ねる。ピリオド終了間際、名高 三浦のハーフラインから放ったシュートが決まり、16 - 13光凌リードで第1ピリオド終了。

#### 《第2ピリオド》

開始早々名高は 田口の中距離シュート、 齋藤のドライブインで一気に逆転する。しかし、光凌 内村のブレイクからのシュートで再逆転。名高はディフェンスを頑張るものの、オフェンスではパスが回らず、シュートセレクションが悪く思うように得点できない。光凌は 山科からのロングパスでブレイクを出すが決定率が低く、主導権を握ることが出来ない。双方リズムを掴み切れないまま、28 - 27光凌リードで第2ピリオドを終了した。

#### 《第3ピリオド》

光凌はディフェンスをオールコートに変え勝負に出る。ダブルチームでスティールするも、オフェンスでのミスでなかなか得点には繋がらない。しかし、 山科の積極的なジャンプシュートで得点する。シュートセレクションの悪い名高は得点が伸びない。しかし、 柴田のオフェンスリバウンドからのシュートで応戦する。42 - 39で第3ピリオドを終了する。

#### 《第4ピリオド》

勝負を決めたい光凌は、 山科 富樫の合わせ、更に 内村、 北平のブレイクで一気に畳み掛け、この試合最大の得点差8点をつける。名高は 三浦の3Pで5点差にするも、光凌の勢いは止まらず、 北平のブレイク、スティールからの連続得点で一気に勝負をつける。名高もディフェンスをオールコートに変えるものの追いつくことは出来ず、59 - 49で名寄光凌高校が優勝を手にした。

戦評 柴田 題 寛